

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と人間力を育み、愛校心 (LOVE & PRIDE) にあふれ、地域に愛される学校をめざす。

1. 志・夢・確かな学力を獲得させ、社会で自信を持って活躍する人材を育てる。
2. 学校行事、部活動を充実させ、人間力を培い、愛校心を育てる。
3. 人権教育の推進、規範意識の向上で、豊かな人格を育む。

2 中期的目標

1 自信を持てる学力の向上と進路実現

(1) 生徒一人ひとりが自信を持てる学力の習得をめざす。

ア 生徒個々の進路実現に対応可能な自信を持てる学力を向上させるため、徹底的に学習習慣をつけさせる。

イ 英語専門コース各授業を充実させ、指導内容の研究を通して、英語科のみならず各教科の授業力の向上をはかる。

ウ 英語検定等、各種検定試験の受検者・合格者増。

※平成 24 年度 1 年生の約 20% が受検。平成 25 年度は 1 年生の 80%、全校生徒の 35% が受検。毎年 10% 増をめざして、平成 28 年度には全学年の約 50% が受検、うち約 75% の合格をめざす。(1 年：3 級、2 年：準 2 級、3 年：2 級)

エ 国際交流活動で英語やコミュニケーション力、国際感覚等を高める。(外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期派遣を実施する。)

(2) 基礎基本の定着と進路実現を見据えた授業力向上を推進する。

エ 「将来構想委員会・学力向上検討チーム」の検討により、生徒にわかりやすく学力に自信がつく授業の研究。自己診断・授業評価の意欲・満足度の着実なアップ。

※24 年度は 69%、25 年度は 72% (速報値) 毎年 5% 増をめざし、平成 28 年度には 80% になるようにする。

(3) 学年進行に応じた適時な進路指導により、夢を抱かせ、志を高く持たせ、生徒個々に合った進路実現を保障する。

オ 進路指導部と学年の更なる連携で、組織的な進路指導機能の充実。計画的・継続的な進路指導で、主体的に学習に向い、将来の自信につながる学力の獲得をめざす。

2 統一感のある生徒指導により、規律ある、かつ安全安心で楽しい学校生活の実現をめざす。

(1) 高校生活の基本となる生徒の規範意識を醸成する。

ア 遅刻指導、服装指導の徹底で、規範意識を育成し、落ち着いた教育環境をつくる。

※遅刻数は平成 24 年度が約 1900 件、平成 25 年度が約 1700 件、毎年 10% 減をめざし、平成 28 年度には 1500 件以下をめざす。
ルールを守ろうとする生徒は、24 年度 87%、25 年度 90% これをさらに上昇させる。

(2) ボランティア活動などにより、愛校心の育成と地域からの信頼の獲得をめざす。

イ 生徒主体の学校説明会、部活動体験会、地域の行事やボランティア活動への参画により、愛校心、帰属意識を育成するとともに地域からの信頼を得られるように地域行事へも積極的な参加をめざす。

(3) 生徒相談体制の更なる充実をめざす。

ウ 教職員間の生徒に関する情報共有を促進し、悩みや心に不安を持つ生徒が安心して学校生活を送ることができる組織体制を充実させる。

3 学校行事・部活動の充実による、愛校心あふれる学校づくりを進める。

(1) 活発な学校行事を伝統化し、主体性と協調性を育成する。

ア 学年進行により主体性をはぐくみ、生徒が主体となる学校行事の企画・運営により、生徒に自信をつけさせ、人間力を向上させる。

※学校行事の満足度は、24 年度 84%、25 年度 85% これをさらに上昇させる。

(2) 部活動への入部を推奨する。

イ 主体的活動を通じて、社会性や組織運営力を身につけ、自ら探究心を高めることにより逞しい人間力を育成する。

※部活動入部率は、24 年度の 1 年生当初が約 57%、25 年度 71% 毎年向上させ、平成 28 年度には 75% をめざす。

ウ 中学校との部活動交流等を推進させる。

4 広報活動の充実による地域からの信頼度を高める。

(1) 独自の学校説明会を 3 回以上実施し、200 校以上の中学校訪問により生徒の活動状況を広報し地域社会から「愛される津田校」となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月 実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導、進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習環境が整っていると答えた生徒は全体で 70% であったが 2 年生での落ち込みが大きく、生徒の学習に向かう姿勢、教員のはたらきかけの両面からの対策が必要。 ・進路指導は各学年共に 8 割以上の生徒が肯定している。求める進路実績につながる成果があるのか、精査が必要。 <p>【生徒指導、学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻や懲戒件数も少なくなってきた。生徒は自らの規範意識について 95% が肯定的に評価しているが学校のルール以外の実際の生活面への広がりが期待されるレベルではない。 ・部活動や学校行事の肯定率は 8 割を超えているが、リーダーシップや主体性は十分に育っていない。 <p>【学校運営、総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて、将来構想委員会からの具体的な提言等も出され、教職員の間で教育活動に関する話題が増えてきたと感じる教員が 9 割。生徒対応などで孤立感を持つ教員が 30% 程度。組織力の向上が急務。 	<p>第 1 回 (7 月 10 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に対する肯定感は何事にも一生懸命取り組ませるから高くなる。 ・中学生に対して、広報活動は大切。各学校が工夫をしている。 ・中学生は落ち着いて学校生活を送ることのできる学校とみている。 ・英語専門コース自体の特色をもっと前面に打ち出すべきではないか。 <p>第 2 回 (11 月 10 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用などにより、もっと学習活動の広がりが期待できる。 ・基礎基本の習得をめざす場面では、徹底した反復練習が必要ではないか。 ・さまざまなメディアを活用して、情報活用能力の向上もさせてほしい。 ・アクティブラーニングの取り組みは、教科を超えて組織的に考えてほしい。 ・英語専門コースの授業は難度の高い教材を扱っているが、身近な話題も取り入れて興味関心の高まる授業を展開してほしい。 <p>第 3 回 (1 月 20 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす生徒像を明確にして、学習指導、生徒指導、学校行事のゴールを示すこと。 ・生徒や保護者のニーズをしっかりと読み取って、やる気を出させるための工夫を。 ・アンケートなどの数字の背景を読み取り、さまざまな制度の再検討も必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自信を持てる学力の向上と進路実現	(1) 基礎学力の充実と発展 ア 自信を持てる学力の定着 イ 英語専門コースを充実発展 ウ 各種検定受検者の増加 (2) 基礎基本の定着と進路実現可能な授業力向上 エ 組織的授業力向上策の推進 (3) 夢を抱かせ、志を高く持たせ、生徒個々に合う進路実現の保障 オ 学年進行に応じた指導ができるよう進路指導部と学年の連携を強化	ア ・グループワーク等の授業形態の工夫、ICTの活用などにより授業改善する。帯学習、週末課題などにより生徒に学習負荷をかける。 イ ・学校協議会等を活用して、学識経験委員等に授業を見学していただき、研究協議を通して英語専門コースの教育内容を高める。 ・国際交流活動によりコミュニケーション力を高める。 ウ ・入学時より英語検定等について生徒の意識を高めて受検者を増加させるようはたらきかける。(H25年度358名) ・事前指導を充実させて、合格者を増加させる。 エ ・授業改善については、「将来構想委員会」の提言を基軸に、組織的に行っていく。 ・英語科を中核として授業改善に向けて、授業見学など相互研修を行う。 ・若手教員を中心とした授業勉強会を開催し、成果を全体に情報提供する。 ・授業評価について、研究を深め授業改善に役立てて行く。 オ ・進路指導部と学年の連携をより密にして、1年生の早い段階からの進路指導を充実させ、生徒に目標を持たせる指導をしていく。 ・実力診断テストの結果を追跡し過去のデータを活用して効果的に進路指導を実施する。 ・進路実現に必要な学力をさまざまな方法によりつけさせる。	ア ・休業中、週末課題等の提出率9割以上 イ ・学識者の参観による授業研究会を2回実施 ・英語専門コース授業の満足度75%以上 ウ ・スタディツアー1校受 ・海外派遣事業7名実施 エ ・英検受検者数、合格率とも前年比10%以上増 オ ・生徒の授業評価による満足度70% ・授業勉強会を年間3回 ウ ・進路指導に関する生徒の満足度を全校平均で75%以上 エ ・就職希望者100%内定 ・公募制入試、一般入試受験者数の前年比増 オ ・進学希望者の4月時点の第一希望を50%達成	ア：授業アンケート「授業展開の工夫」は全校の平均値で3.1だが、教員間で差がある。週末課題の提出率は毎週98%以上、放課後学習との成果で1年生の外部模試成績は下位層減、上位層増。(○) イ：第2回学校協議会開催時に参観を実施、研究協議を実施、パッケージ研修の研究授業に協議会委員を招き指導助言をいただいた。英語専門コース授業の満足度は2、3年生の平均値で70%程度であり、今年度は特に2年生の難易度に課題を残した。台湾からの修学旅行生受け入れ交流を11月に実施。米国語学研修は3月に3名参加(○) ウ：授業担当者、担任のはたらきかけにより、第3回英検受検者438名(昨年度358名)内、準2級88名、2級13名受験。(◎) エ：将来構想委の提言により、パッケージ研修による研修会、研究授業を含め授業勉強会を5回実施できた。経験年数の少ない教員による評価研修は6回実施できた。自己診断アンケートでの授業満足度は74%、授業アンケートでは75%が肯定的回答。(◎) オ：自己診断アンケートでの進路指導の満足度は84%(昨年度80%)。業者主導のガイダンスは再検討が必要。学校紹介による就職希望者は11月で100%内定。4年制大学の公募制推薦入試の受験者はのべ334名(昨年度266名)、内71名合格(75名)。一般入試にはのべ156名(114名)が受験。(○)
2 統一感のある生徒指導により、規律ある、かつ安全安心で楽しい学校生活の実現	(1) 規範意識の育成 ア 遅刻と服装指導、授業規律を徹底する (2) ボランティア活動やあいさつで、愛校心育成 イ 生徒主体の活動を発展させ、地域の信頼を得ることで生徒の自信を高める (3) 生徒相談体制の更なる充実 ウ 不登校や転退学生徒の減少させるため、教員の情報共有を進める	ア ・生徒指導週間を継続するとともに内容を工夫し、生徒の規範意識の向上を図る。 ・生徒が自らルールを守ろうとする、主体的な規範意識を醸成するため、保護者の協力を仰ぎ家庭と一体となった指導を進める。 ・年間を通して授業規律を徹底し、落ち着いた学習環境を維持して、学習効果を高める。 イ ・学校説明会等に生徒会やクラブ員を主体として積極的に広報活動に参画させる。 ・外来者や地域の方に「あいさつの津田」と言われることにより、生徒が学校に愛着と誇りを持てるようにする。 ・環境整備、校内緑化活動に生徒を参加させ、生徒の環境整備への意識と愛校心を高める。 ウ ・生徒相談体制を強化し、相談委員会の情報共有により、生徒が安心して学校に来られるよう、きめ細かな対応をめざす。 ・共通した対応ができるよう、学年間、担任間の情報共有を一層進める。 ・本校の教育方針や教育内容を理解して入学する生徒を増加させることで、ミスマッチを減らし、不登校や転退学者を減少させる。 ・部活動参加者の精神的ケアを行う。	ア ・生徒アンケートによる規範意識を90%以上に ・年間遅刻件数1400以下 ・生徒、保護者アンケートによる学習環境への評価を90%以上に イ ・自己診断「あいさつしている」75% ・自己診断「学校へ行くのが楽しい」75% ウ ・教育相談の肯定率を5ポイント上げる。 ・不登校生徒、中途転退学者数の前年比減 ・年度途中の部活動退部者数の前年比減	ア：規範意識を基盤にした学習指導をめざす本校の生徒指導については肯定されている。自己診断による生徒の意識(学校のルールは守る)は95%、12月段階での遅刻者数は1172件(昨年1220件)、さらなる遅刻者減のためには「遅刻している生徒像」の焦点化が必要。落ち着いた学習環境の整備については生徒70%(69%)、保護者94%(94%)生徒実態からも今後も学習環境の整備向上が必要。(○) イ：自己診断であいさつをしていると答えた生徒は75%(昨年度73%)、学校へ行くのが楽しい生徒77%(72%)。規範意識と連動しているものと思われる。教員にもあいさつと「プラス一言」がほしい。(○) ウ：自己診断の相談に応じてくれる教員がいると答えた生徒は48%(昨年48%)。一般的に高校生にとって、教員は主な相談相手ではないが、肯定感はない。不登校者数は6名(昨年10名)、転退学者5名(7名)、(△) 年度途中の部活動退部者数は34名(昨年45名)に減少(○)
3 愛校心あふれる学校づくり	(1) 活発な学校行事を伝統化し主体性と協調心を育成する場とする ア 生徒主体の運営の推進 (2) 部活動加入率を維持、向上 イ 加入率アップのための全校的体制の強化 ウ 中学校との交流促進	ア ・学校行事への関わりを、学年進行により、計画的に生徒中心となるようにし、クラスにおいても生徒が主体的に目標も持って運営できるよう、サポートしていく体制をつくる。 イ ・部活動加入率を維持、上昇させるために、部活動と学習が両立できるよう、部活動参加者対象の考査前学習会の実施などの支援体制を整備する。 ・これまでの体験入部週間を継続するとともに、顧問、担任などが教育相談組織とも連携するなどして、退部者を減少させる。 ウ ・中学生の「部活動体験会」を継続発展させる。 ・英語専門コースの生徒を中心に、学校説明会などで発表したり、地域の小中学生にとっての目標となるよう小中学校のイベント等へ出向く。	ア ・生徒アンケートによる学校行事への満足度を90%以上に イ ・1年生の加入率70% ウ ・「部活動」体験会などで交流する部活動のべ50以上 ・交流に参加する中学生数前年比増(約450名) ・地域の小中学校が開催する英語スピーチコンテスト等のイベントに本校生を派遣する。	ア：学校行事が盛んであると答えた生徒は83%(昨年86%)。一部の生徒に体育祭や文化祭の企画運営にもっと主体的に係わりたい思いがある。(△) イ：1年生1学期の部活動加入率は75%であるが、学年進行で退部者があるので学校全体では70%程度である。(○) ウ：年間を通して中学校との部活動交流は盛んであり、2学期の申し込みによる交流でも65校が参加、合計220名の中学生が参加した。(クラブ単独で交流した中学生数約250名)津田中学校が開催した英語スピーチコンテストに本校3年生(英語専門コース選択生徒)を派遣し、プレゼンテーションを行った。来年度はスライドに字幕を付けるなどの工夫が必要。(○)